

第4回 標準委員会 発電炉専門部会  
安全解析のための風洞実験分科会 議事録

1. 日時 平成13年6月7日(木) 13時30分～17時00分
2. 場所 日本原子力学会 会議室
3. 出席者(敬称略)  
(出席委員) 井手(主査)、柿島(副主査)、白木(幹事)、安達、大場、佐田、福田、水本、村松、山澤(10名)  
(欠席委員) 鈴木(1名)  
(常時参加者) 金森、矢尾板(2名)  
(発言希望者) 井田(1名)  
(事務局) 太田、市園

4. 配布資料  
P3SC4-1 第3回安全解析のための風洞実験分科会議事録(案)  
P3SC4-2 標準委員会の活動状況  
P3SC4-3 安全解析のための風洞実験実施基準(案)  
P3SC4-4 同上 附属資料  
P3SC4-5 風洞および野外拡散実験から求めた放出源有効高さ  
P3SC4-6 附属書1(規定) 標準の体裁

参考資料

P3SC4-参考1 平成12年度標準委員会事業報告

5. 議事内容  
議事に先立ち、事務局より、委員11名中10名が出席しており、本会議が決議に必要な定足数を満たしている旨の報告があった。

- 1) 前回議事録の確認  
前回議事録について承認された(P3SC4-1)。
- 2) 全体活動状況について  
事務局より、P3SC4-2により、第8回標準委員会他の報告があった。

- 3) 風洞および野外拡散実験から求めた放出源有効高さについて

山澤委員、大場委員より、P3SC4-5により、分科会での議論の参考として、日本原子力研究所が国の委託を受け89年から約2年かけて筑波山周辺で実施した野外拡散試験及び風洞試験により求めた放出源有効高さに関する評価結果の説明があり、議論が行われた。

- 4) 風洞実験実施基準(案)

水本委員より、P3SC4-3、P3SC4-4により、風洞実験実施基準(案)の説明があった。以下のような審議が行われた。

- ・2. 定義の「事故時」は、本標準の範囲が気象指針に基づくものとしていることから「想定事故時」とする。
- ・定義に“線量評価地点”について、線量目標値指針の趣旨を明記する。
- ・4. 1 実験方位の「放出源」はトーンを合せる為に「排気筒」とし、付属書は指針名を記載し引用可能な為削除する。
- ・4. 2 放出源高さの特に異常でない場合に変更を要しないことが気象指針に記載されているが、この手法まで触れていないことから気象指針に示される異常年検定の結果を削除する。
- ・5. 1 実験方位の“16方位に分割……”の記載は、原子炉立地審査の記載と合わせ見て妥当か否か、白木幹事の方で確認する。また、書き出しを排気筒から…にして立地指針を後に記述し意味を明確にする。また、付属書の必要性は再度検討する。
- ・6, 7章は実験結果の取扱い方法を規定しており、8. 実験方法の後に記載することとし、6. 2 “実験結果の整理方法”は、“有効高さの整理方法”に変更する。
- ・8. 1 実験装置には、装置の説明が記載されており、要求事項を簡明に規定する
- ・8. 2. 1 気流設定条件は、「気流条件を以下で代表させて模擬する」として意味を明確化し、以下を削除する。また、主流方向の乱れ強さ：10～16%を記載する。
- ・8. 3. 2 トレーサー・ガスは、ガス種の差異説明は不要のため削除する。
- ・8. 3. 3 放出高さは、“支柱となる部分が流れに影響を及ぼす場合には”は、どんな場合か(地上や建屋放出等)を明確に記載する。
- ・8. 3. 4 ガスの放出速度は、地形等を解明するとともに、敷地境界等を削除する。
- ・8. 3. 5 ガスの吸引速度は、吸引プローブを規定する条件(太さ等)を記載する。
- ・8. 3. 8 平地実験は、放出源高さ0での濃度分布からz及びy方向の広がり巾パラメータを算出することを規定する。

- ・ 8. 3. 9 模型実験は、空間分布の測定が望ましいことを記載する。
- ・ 9. 実験結果の整理方法の、9. 1 及び 9. 2 は、作図条件・方法のみを規定することとし、見直す。
- ・ 附属書（案）のうち、1 と 5 は不要なので削除。2, 3 は採用し、本文に引用を記載する。
- ・ その他、字句の修正、“等”の具体的なものへの置き換え、ほか

### 3) その他

- ・ 事務局より、基準（案）の作成に際して、第 1 回分科会で配布した「標準作成の手引き」及び P3SC4-6 「附属書 1（規定）標準の体裁」にしたがって実施するようにとの話があった。
- ・ 本日の意見を反映し、様式も整えた改定版を作成し、これを基に専門委員会、標準委員会に中間報告を行うことを確認した。
- ・ 参考とするか解説とするかは、明確な線引きが難しくケースバイケースで考える必要がある。

### 6. 次回開催予定

第 5 回分科会を、8 月 9 日（木）、午後より開催することとした。

以上